

方剂名	効能	生薬組成
書籍	主治および証	病機 方意
温裏剤 温経散寒剤 2		
<p>おうぎけいしごもつとう 黄耆 桂枝五物湯</p>	<p>益气温経・和營通痺</p>	<p>黄耆 12g・白芍 9g・桂枝 9g・生姜 12g・大枣 4g (桂枝湯の生姜を倍にして -甘草 +黄耆) に相当する。 水煎し服用する。</p>
<p>金匱要略</p>	<p>主治は、血痺による肢体のしびれ、脈が洪で無力などの症候である。 「血痺、陰陽ともに微、寸口関上は微、尺中は少しく緊、外傷は身体不仁し、風痺の状の如きは、黄耆桂枝五物湯これを主る。」とある。 營衛虚弱で腠理不固のものが風邪を感受し、肌表の血絡が阻滞されたために生じた皮膚のしびれや知覚麻痺が「血痺」である。脈が寸関の浮沈(陰陽)共に微であるのは「營衛虚弱」を、尺脈が緊は「風邪」をあらわす。 本方(黄耆桂枝五物湯)は、黄耆・桂枝で益気通陽し、白芍で養血和營し、大枣・生姜で營衛を調和させる。桂枝湯から緩急の甘草を除き生姜を倍にして黄耆を加えた処方に相当し、生姜を増量して邪を散じ、緩急の甘草を除いている。</p>	